

# 授業のユニバーサルデザイン化

特別支援教育の視点からの授業づくり





## はじめに

発達障害の児童生徒が年々増加しているといわれています。通常学級の中で、配慮や支援の必要な児童生徒が楽しく学ぶためにはどうしたらよいのだろうか、わかる授業はどのようにするとよいのだろうかなど、日々悩まれている先生がいらっしゃるのではないのでしょうか。そのような中、授業のユニバーサルデザイン化に取り組む学校が増えてきています。

県では、授業のユニバーサルデザイン化の取組として研修会や授業研究会を行ってきました。その取組の中から、特に特別支援教育の視点から進める授業のユニバーサルデザイン化のポイントについてガイドブックとしてまとめました。発達障害のある児童生徒の実態から全体の支援を考えていく手順や教室の環境づくり、授業づくりの実践例を紹介しております。

多くの先生方に読んでいただき、子どもたちへの実践の参考にしていただければ幸いです。

平成 28 年 3 月

福井県教育庁高校教育課  
特別支援・発達障害児教育グループ

# 目次

実態把握からの授業づくり	1
児童生徒の様子から	2
実態把握	3
支援の検討	4
ユニバーサルデザイン化	6
環境づくり	10
授業づくり	12
おわりに	16

## 実態把握からの授業づくり

授業のユニバーサルデザイン化を進めるにあたり、その出発点は児童生徒の実態からという考えに基づき、実態把握を中心とした授業づくりの一例をご紹介します。

授業のユニバーサルデザイン化については、下記のように言われています。

- 学力の優劣や、発達障害の有無にかかわらず、全員の子どもが、楽しく学び合い「わかる・できる」ように工夫・配慮された通常学級における授業デザイン  
〈筑波大学附属小学校 桂聖先生〉
- 発達障害等の子どもには「ないと困る」支援であり、どの子どもにも「あると便利で・役に立つ」支援を増やす。その結果として、全ての子どもたちの過ごしやすさと学びやすさが向上する。  
〈植草学園短期大学 佐藤慎二先生〉

佐藤慎二先生が述べている「発達障害等の子どもには『ないと困る』支援であり、どの子どもにも『あると便利で、役に立つ』」という考え方から、どの子にとってもわかりやすい授業を行うために、特別支援教育の視点で、授業づくりについて提案します。

授業のユニバーサルデザイン化は、特定の方法を取り入れさえすればすべての児童生徒が理解できる授業という捉え方ではなく、一人ひとりの個性や特性を考慮し、その支援をどのように全体の授業に取り入れるかを考えた授業ととらえます。つまり、児童生徒の特性を考慮した授業は、その子を含む学級のみんなにとってわかりやすい授業と言えます。授業は学級単位で行うため、その学級のどの子にもわかる授業、1組なら1組の、2組なら2組のユニバーサルデザイン化された授業となるわけです。しかしながら、学級全体がわかる授業をめざすことは難しく、中には個別の指導・支援が必要な児童生徒もいます。学級の実態が違えば、指導方法や取組も違うという考えから始めてみましょう。

このガイドブックでは、児童生徒の実態から、授業のユニバーサルデザイン化を考えていきます。

# 児童生徒の様子から

例えば、こんな様子を示すお子さんがいるとすると、その背景にはどんなことが考えられるでしょう

授業への集中が続かない

指示の理解が困難

友達と協力することが苦手

学習用具がうまく使えない

～考えられる背景～

## 授業への集中が続かない

- ・注意欠陥多動性障害による注意散漫
- ・読み書き困難や理解困難による意欲低下
- ・生活習慣
- ・家庭環境
- ・悩みやストレス など



## 指示理解が困難

- ・知的な遅れ
- ・情報処理の仕方
- ・注意の持続が困難
- ・認知の偏り
- ・読み書き困難 など



## 友達との協力が困難

- ・対人関係の形成が困難
- ・相手の気持ちを推しはかれない
- ・認知の偏り
- ・気持ちのコントロールが下手
- ・ルールが理解できない など



## 道具がうまく使えない

- ・認知の偏り
- ・使い方が理解できていない
- ・手先の不器用さ など



# 実態把握

子どもたちが示す様子からどんな背景があるのかを見極めるためには、実態把握をしましょう。その結果や課題について、校内委員会で話し合しましょう。

例えば・・・

小学校3年生の Aさん  
(ADHDの診断有り)



## 実態把握

方法その①

### 行動観察をしよう

**行動観察**をして記録を取りましょう。行動観察をするときには、どんなときにつまずくのか、どんな時に集中しているのかなどを記録するとよいでしょう。また絵や文字、日記の内容などを参考にするとよいでしょう。

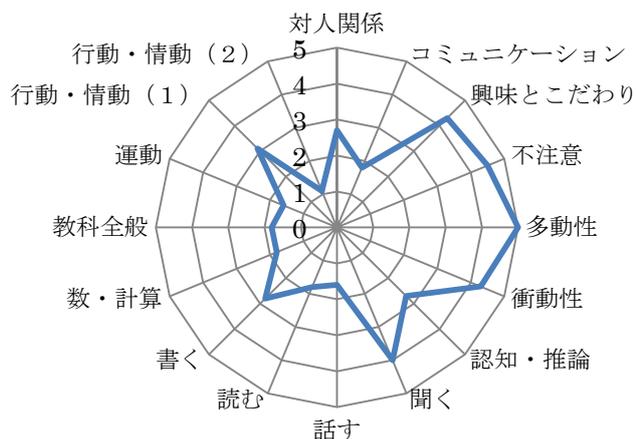
子育てファイルふくいっ子の**基礎調査票**(※1)も活用しましょう。

#### <できていること>

- ・学習意欲は高い
- ・何でも率先してやりたがる

#### <気になること、つまずくこと>

- ・おしゃべりがやまない
- ・隣の子によくちょっかいを出す
- ・自分の考えをノートに書くのは苦手



子育てファイルふくいっ子基礎調査票結果

方法その②

### 客観的アセスメントしてみよう

**発達検査**(WISC、田中ビネー等)などで客観的にどこが苦手なのか、何ができるのかを把握しましょう。

#### <基礎調査票からわかること>

- ・多動性がみられる
- ・不注意や衝動性もみられる
- ・教科の内容は理解できている
- ・友達関係では、やや課題がある
- ・聞くことに苦手さや困難さがある

(※1) 基礎調査票とは子育てファイルふくいっ子にあるチェックシート

# 支援の検討

行動観察やアセスメントから A さんの実態やその行動の背景について把握ができれば目標や支援について具体的に考えましょう。

## 課題の整理

行動観察やアセスメントの情報からできていることと、苦手なことに分け、課題を整理していきましょう。



実態

### <できていること>

- ・学習意欲は高い
  - ・何でも率先してやりたがる
- ### <気になること、つまづくこと>
- ・おしゃべりがやまない
  - ・隣の子によくちょっかいを出す
  - ・自分の考えをノートに書くのは苦手

### <基礎調査票からわかること>

- ・多動性がみられる
- ・不注意や衝動性もみられる
- ・教科の内容は理解できている
- ・友達関係では、やや課題がある
- ・聞くことに苦手さや困難さがある

得意なこと・  
つよいこと

得意なことを、学級や授業の中で生かせる場面を作りましょう

- ・学習意欲が高い
- ・教科の内容は理解できている

苦手なこと・課題  
なげな

苦手なことに対しては、背景を考え、仮説をたてて支援の内容を考えます

### 手順

- ・本人の様子
- ↓
- ・背景
- ↓
- ・仮説
- ↓
- ・目標や支援の内容

### 例1

- ・おしゃべりがやまない
- ↓
- ・衝動性がある
- ↓
- ・思ったら口に出してしまう
- ↓
- ・しゃべってもよい時間としゃべってはいけない時間の区別をつける

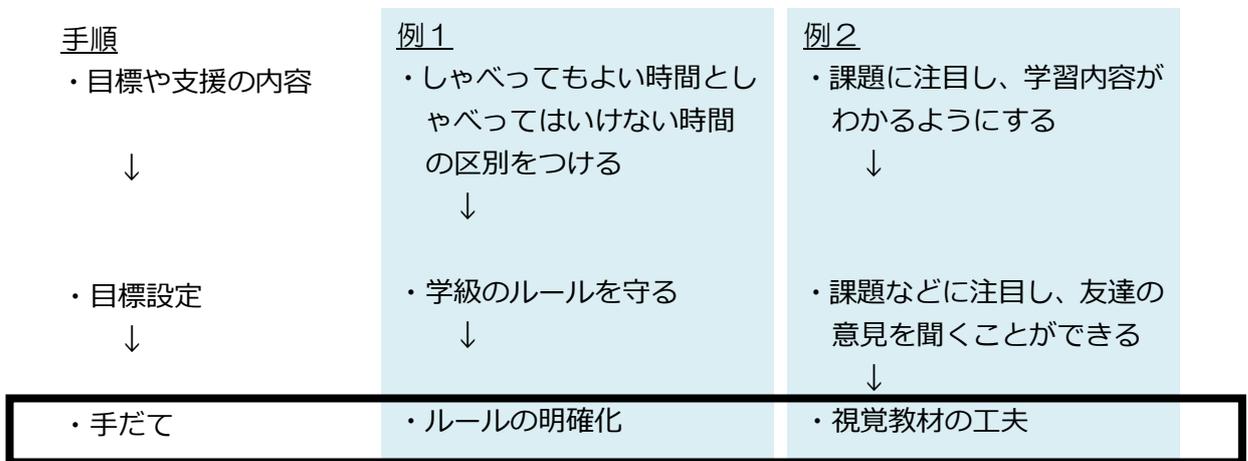
### 例2

- ・自分の考えを書くのが苦手
- ↓
- ・不注意、注意の持続が困難で課題がわからない
- ↓
- ・注目しにくさがある
- ↓
- ・課題に注目し、学習内容がわかるようにする

# 支援の検討

課題の整理から、本人の優先的な課題を見極め、目標や支援につなげていきましょう。また、具体的な支援の手だてについても考えていきましょう。

## 目標や支援の設定



## 支援のヒント

対象とする児童生徒の苦手さに対してどのような支援が必要か、どのように工夫するとよいのかを具体的に考えることが大切です。



# ユニバーサルデザイン化①

支援のヒントから、学級全体にとっても有効な支援を考えてみましょう。それぞれの学級の支援について情報交換し、学年全体あるいは学校全体で取り組むとよい支援を共有しましょう。

## ルールづくり



例：Aさんの実態から

### 手順

- ・目標や支援の内容  
↓
- ・ルールの内容  
↓
- ・具体化

### 例1

- ・しゃべってもよい時間としゃべってはいけない時間の  
区別をつける  
↓
- ・しゃべってもよい時間  
ペアやグループでの話し合い、発表するとき
- ・しゃべってはいけない時間  
先生が話しているとき、友達や相手が話しているとき
- ・しゃべってもよい時間がわかるように、ペアやグループでの話し合いのときは、話す人のところに三角すいをおく
- ・発言するときは、手を挙げて、指名されてから話す
- ・相手が話しているときは、口を閉じる



## 順番がきたら発表しよう



- ・三角すいが目印です
- ・三角すいが置かれているところの人を見ましょう

上記の例では、三角すいで示しましたが、最初は児童生徒にとってわかりやすい支援をしましょう。できるようになってきたら、他の方法にしたり、支援を少なくしたりするなどして、なくてもできるようにしていきましょう。できていたら、褒めることが大切です。

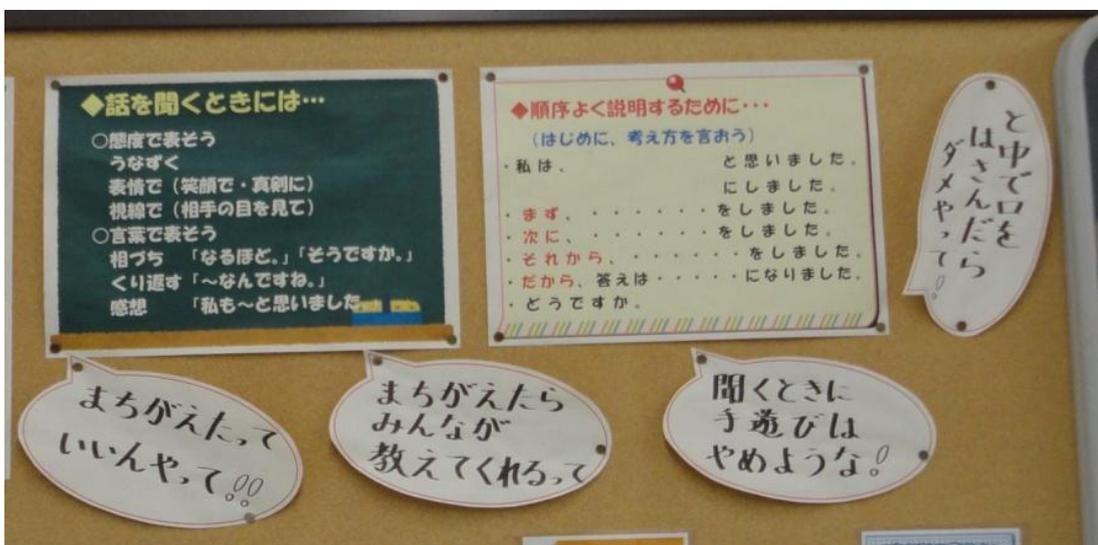
# ユニバーサルデザイン化①

発表の仕方やきまりなども文字で表し、いつでも確認できるようにしておく  
とよいでしょう。

また、低学年では登校してからの過ごし方、連絡帳や宿題の提出、かばんの  
片付けなど手順を示すことでスムーズに取り組める児童がいます。学年で共有  
化し、学年のルールにするとよいでしょう。

## ルールづくり

<実践例>



## めざせ！学びの達人

〇〇っ子 **7** ヶ条

- 1. 時間になったらすぐに席に座る**  
・移動の時は静かに整列・移動
- 2. 学習の始め・終わりのあいさつをそろってする**  
・姿勢よく、短い時間で
- 3. 教科書は左 ノートは右**  
・必要のあるものだけ机に置く
- 4. 正しい姿勢で座る**  
・足はべったん・背中はピン
- 5. みんなに聞こえる声で返事をして話す**  
・「はい」「～（から）です」「～ます」
- 6. 話す人を見ながら最後まで聞く**  
・話す人に顔・体・心を向ける
- 7. 授業中、勝手に席を離れない**  
・離れるときは理由を伝える

## ユニバーサルデザイン化②

支援のヒントから、視覚教材の工夫について考えてみましょう。授業のユニバーサルデザイン化には「視覚化」というキーワードがあります。何をどう視覚化するのか、教材をどのように提示するとよいのかなど工夫をしましょう

### 視覚化



例：Aさんの実態から

#### 手順

- ・目標や支援の内容



- ・注目のさせ方



- ・具体化

#### 例2

- ・課題に注目し、学習内容がわかるようにする



- ・課題を視覚的にわかるように提示する
- ・課題を四角で囲む、色画用紙に書いておく、しるしをつけるなど、課題とわかるように同じ方法で提示する



- ・視覚教材の工夫



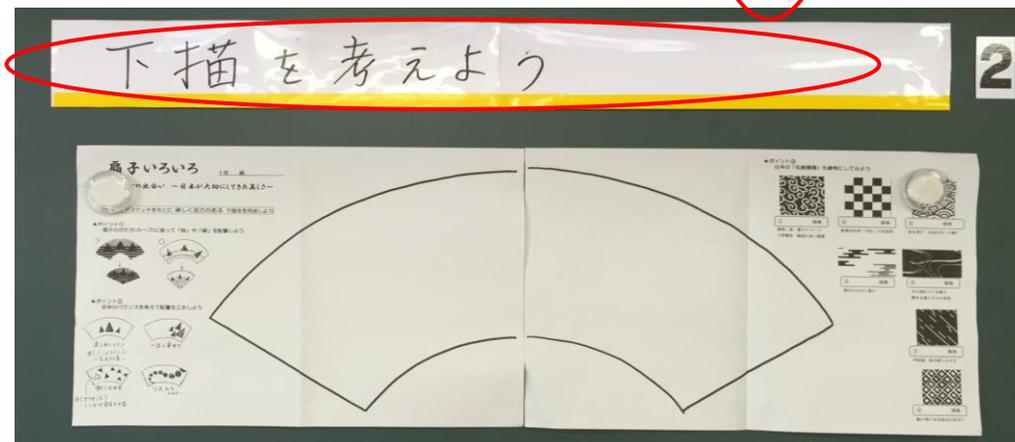
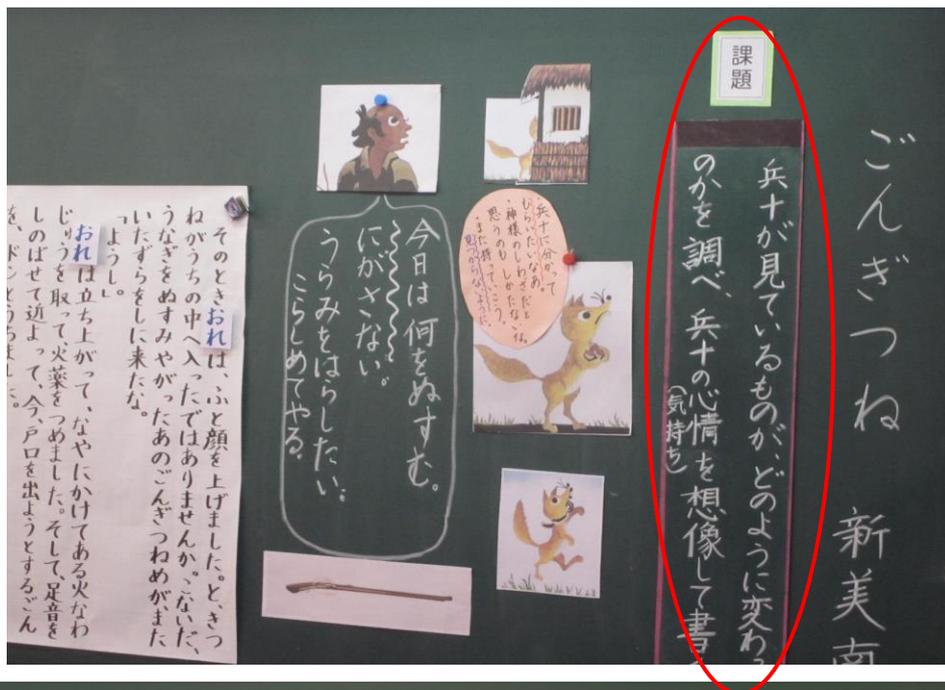
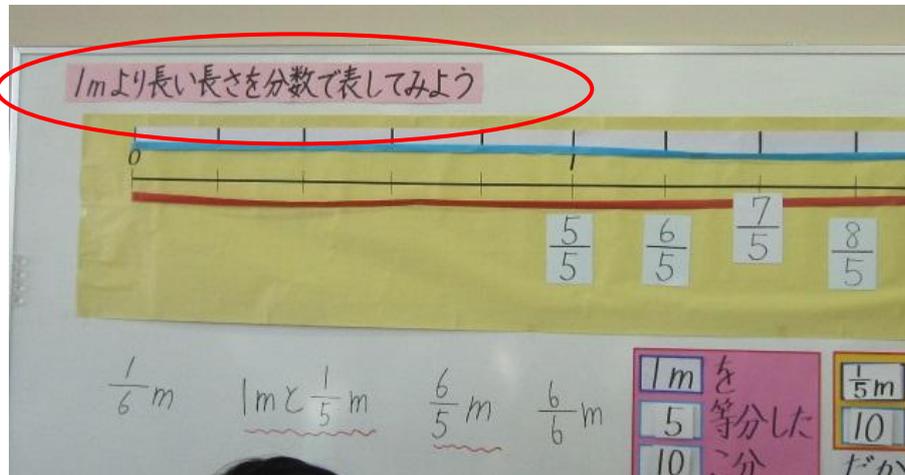
### 課題は四角で囲む

上記の例では、四角で囲むことを示しましたが、色を付けたり、「めあて」や「課題」等の表示をつけるなどして視覚的にわかりやすく、注目できるようにしましょう。

課題のほかに、考えるヒントになる内容なども視覚化することで考えやすくなります。どの場面の学習をしているのか、何を考えればよいのかなど、考えるヒントになる教材の工夫をしましょう。

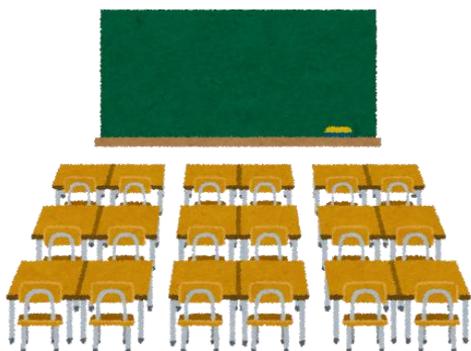
# ユニバーサルデザイン化②

<実践例>



## 環境づくり①

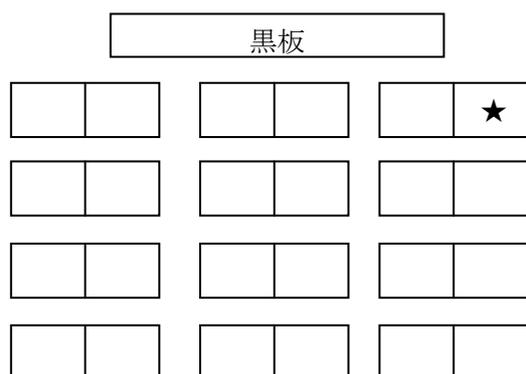
支援のヒントから有効な支援について考えてきました。同じように児童生徒の実態から、児童生徒が授業に参加しやすく、安心あるいは集中して学習できる教室環境をつくりましょう。その例を紹介します。



黒板に注意が集中できるようにするために、黒板の周りにはあまり掲示物を貼らないようにしましょう。



音の刺激に敏感な子もいます。緩衝材などを使って音が出にくい工夫をしましょう。



友達の動きに対して反応してしまう子には座席の位置を考慮しましょう。子どもが周りの状況を確認でき、教師が声をかけやすい場所、つまり教室の前列に座席があるとよいでしょう。また、子どもによってはモデルとなる子の近くの座席にすることも有効な手だてです。

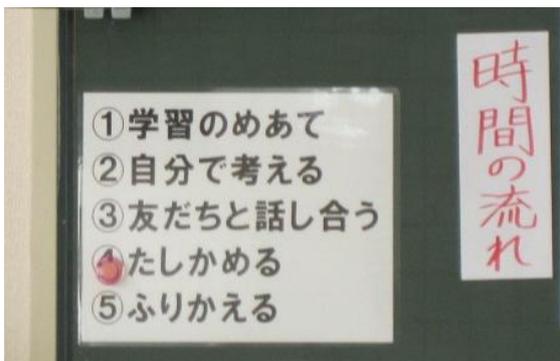
### <その他の支援>

道具を使う授業の時には、使うものがどこにあるのか、どのように片付けるとよいのかを写真などを使ってわかるようにするとよいでしょう。また、道具の使い方も図や写真で示すと取り組みやすくなります。

## 環境づくり②

時間の流れを提示することも児童生徒が安心して授業に参加できる支援です。

＜実践例＞



授業の見通しがもてるようにする支援です。授業の流れを示しておくことで、次にどんな活動があるのかがわかり、授業に集中しやすくなる子もいます。また、授業のゴールがわかることで、安心して授業を受けることができる子もいます。



中学校での事例です。

取り組む課題の過程がわかることで授業の最後まで意欲を持って取り組むことができます。まためあてとして利用できるように工夫されています。

また、慣れてきたら少しずつ支援をなくしていくことも大事なポイントです。

# 授業づくり①

みんながわかる・できる授業をめざして、授業の展開の中に特別支援教育の視点を入れ、授業のユニバーサルデザイン化を進めましょう。そのためのポイントをいくつか紹介します。

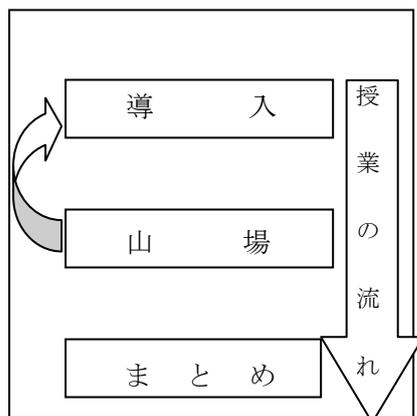
## ポイント①

### 焦点化

授業のねらいやめあてを具体的に示しましょう。

ねらい・・・単元や小単元で育成する力

めあて・・・児童生徒が解決する学習課題



授業のめあての達成を「山場」ととらえ、山場から導入を考えます。

「わかった」「これだ」「できた」

山場での児童生徒の反応は、どのようなことばで表現されるでしょうか。単元のねらいにあうことばを具体的に考え、それに対する導入、発問を考えます。

山場から導入を考えると、めあてや課題がより具体的になります。これが焦点化です。めあてが具体的であれば、どの児童生徒にとっても考えやすく、取り組みやすくなります。めあてが達成されたら、発展的な課題に取り組むなどするとねらいが達成されやすくなります。

## ポイント②

### 共有化

課題を解決するための考え方や意見について、ペアやグループで話し合い、共有するようにしましょう。何について話し合うのかを明確にすることや、互いに考えや意見を出しやすいように、話しやすい雰囲気づくりにも留意しましょう。

# 授業づくり②

## ポイント③

### 指導案の工夫

授業のユニバーサルデザイン化に取り組むときには、指導案の中に支援について明記しましょう。

指導案の中にユニバーサルデザイン化の視点について、例えば記号を決めて書くといいでしょう。

	2	本時の学習課題と流れを知る。	☆本時のめあてを板書する。[UD1・2]	
		◎筆者の評価（どこがすごいと思っているか）を読み取る。	・P146の「たいせつ」を読み、筆者のものの見方をとらえるときに大切なことを確認する。	
展開 (1 2)	3	1、2の段落を読み、1つ目の着目点についてみんなで考える。 ○筆者は、兎と蛙の動きや色・模様などについて、どこがすごいと思っていますか。 ・のびのびとみごとな筆運び ・生き生きと躍動していて、人間みたい ・何から何まで本物の生き物のまま ・本当の兎や蛙たちが、今ひょいと立って遊び始めたのだとしか思えない。	☆絵と本文を黒板に貼り、どのように読み取ったらいいかを、みんなで考えながら理解できるようにする。 [UD3]	※2

また個別指導が必要な児童生徒に対する支援を書くようにすると、授業研究会でどのような支援が有効だったか、他にどんな支援が考えられるかなどの視点で話し合い、有効な支援について深めることができます。児童生徒のつまずきに対しても想定される支援を具体的に書いておくといいでしょう。

			問題を解くように伝える。	
		個別	・ワークシートに書いた答えが合っているかを確認する。 I・問題に取り組んでいるか確認する。 II・単位分数の何こ分かをもとにして考えるよう助言する。 ・IIIや早く解いた児童には、ワークシートに説明を書くよう促す。	
		一斉	・答えを模造紙に書き込んでいく。	
			・答えを発表する。	

(※2) UDとは、ユニバーサルデザインの略

# 授業づくり③

ポイント④

## 板書の工夫

学習の流れに合わせて板書したり、項目ごとにまとめたりして、授業の終わりにどう  
いう学習内容だったのかがわかるような板書だと、振り返りやすくわかりやすくなりま  
す。



# 授業づくり④

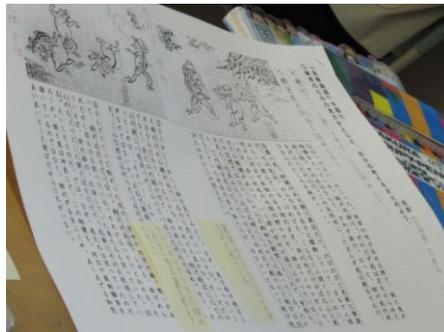
## ポイント⑤

### ワークシート

黒板と同じ内容で準備すると安心して取り組めたり、穴埋め式にすることで取り組みやすくなったりします。



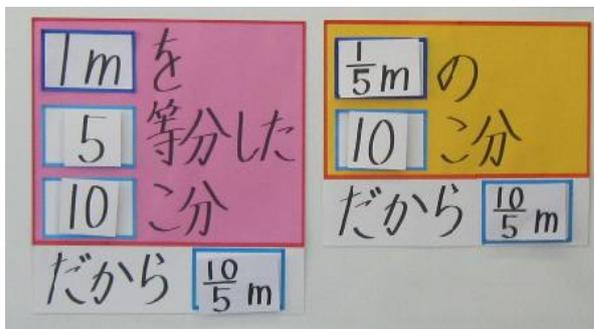
黒板と同じ  
ワークシート



## ポイント⑥

### 発表の仕方（話型）

大事なことばやキーワードなどを示すことで、児童生徒がいつでも確認でき安心して学習することができます。



## おわりに

このガイドブックでは、これから授業のユニバーサルデザイン化に取り組む際の参考になるようにと特別支援教育センターの協力のもと作成しました。

このガイドブックで紹介していることはほんの一例です。一人ひとりの児童生徒の実態からの工夫が必要です。授業のユニバーサルデザイン化を進める中で、児童生徒の実態に応じた指導支援ができてくると、学級全体が落ち着いた雰囲気になります。ユニバーサルデザイン化の授業づくりとともに、土台となる学級経営においてもユニバーサルデザイン化の視点を取り入れて、児童生徒が安心して過ごせるようになるとういと思います。学校全体、学年で、児童生徒の発達段階に応じた工夫を行い、校内の先生方がお互いに連携しながら、一人ひとりを大事にし、子どもたちが安心して学習できる環境づくり、授業づくりをお願いします。

平成 28 年 3 月

<参考文献・引用文献>

「通常学級での特別支援教育のスタンダード」

東京 日野市公立小中学校全教師・教育委員会 with 小貫悟(東京書籍.2010)

「授業のユニバーサルデザイン入門 どの子も楽しく「わかる・できる」授業の作り方」

小貫悟・桂聖(東洋館出版社.2014)

「授業のユニバーサルデザイン」 vol.1～vol.8

授業のユニバーサルデザイン研究会編著(東洋館出版社)

「実践 通常学級ユニバーサルデザインⅠ－学級づくりのポイントと問題行動への対応－」

佐藤慎二(東洋館出版社.2014)

「実践 通常学級ユニバーサルデザインⅡ－授業づくりのポイントと保護者との連携－」

佐藤慎二(東洋館出版社.2015)

「通常学級で行う特別支援教育 1 ユニバーサルデザインの授業づくり・学級づくり」

花熊暁編 高槻市立五領小学校著(明治図書.2011)

「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり 12 のポイント 誰にでもわかりやすい  
授業 どうしたらいいの？」

埼玉県立総合教育センター(2013)

「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」

山形県教育センター(2013)

※写真は福井県内の小中学校の実践によるもの